

長野県の医療・介護の危機をともに乗り越える

いのちまもる県民集会 報告ニュース 2025.11.26.

<連絡先> 長野県社会保障推進協議会 380-0838 長野市県町 593 長野県高校教育会館 3階
TEL 026-219-6314 <http://www.n-syaho.com> E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp



長野県の医療・介護の危機をともに乗り越える いのちまもる県民集会は、11月1日土曜、長野市のJAアクティーホールにて開催しました。会場に170名、オンラインで40名が参加しました。主催は9団体(県保険医協会、県民医連、県医労連、県難病連、県労連、障県協、長野医療生協、長野地区社保協、県社保協)で構成する実行委員会です。

集会の初めには演奏楽団「ミルク&カウボーイズ」による文化行事がありました。会場が一体となって、音楽を楽しみました。

各分野からリレートーク

県民医連の佐野達夫会長による開会挨拶と、県社保協の藤本ようこ事務局長による基調報告の後、9名によるリレートークが行われました。

最初に登壇した村上晃弁護士(長野中央法律事務所)は「国に生活するすべての人が医

療にアクセスできるようにすること、それは基本的な権利です」と述べました。

大桑村村議の瀬瀬悠乃さんは、県立木曽病院の医療体制を維持するための運動について報告し「安心して生き、産み育て、看取ることが出来る地域社会にしたい」と訴えました。

県難病連の田幸康宏会長は、難病患者の現状や課題とあわせて、OTC類似薬の問題に触れて「皮膚疾患の患者は保湿剤が必要」「痛みを伴う患者は湿布や鎮痛剤を使う」とOTC類似薬の保険外しの中止を訴えました。

障県協の松丸道男代表は、ご自身の生活実態を紹介しながら「憲法や国連・障害者権利条約を指針とした日本の施策の改善」等を訴えました。

県社協福祉人材センター所長の舟山優さんは、訪問介護サービスに関する調査結果から、「介護職の高齢化」「人材確保の困難」等の事業所の課題を紹介しました。

県介護福祉士会の鈴木よし子会長も、「超高齢化社会による介護職員の人手不足」を指摘しました。同時に介護は「感謝、感激、感動」できる魅力ある仕事であり、魅力発信への予算が必要と訴えました。

県看護協会の松本清美会長は、深刻な看護師不足の実態を語り「県民が安心して暮らせ

る地域社会をつくるためにも、看護師の働く条件整備が大切」と訴えました。

県保険医協会副会長で歯科医師の林春二さんは、歯科の直面する3つの危機として、①歯科医療機関の経営困難、②歯科技工所の経営困難、③歯科衛生士不足について述べました。

最後に松本協立病院臨床研修医の田村大地さんが発言しました。医師不足による過重労働の根本原因は国の医師数の抑制政策にあると指摘し「国際的にみて（日本は）13万人の医師が不足していると言われています」と報告しました。

講演で深い学び

講演は、日本医療総合研究所の寺尾正之研究・研修委員により、「医療・介護の基盤インフラを充実し、安心できる地域づくりを」をテーマに行われました。



講師は、政府の誤った施策により、病院経営が破たんしたり、地域の医療や介護が縮小されてきたりした実態についてわかりやすく説明しました。そのうえで、「超高齢社会に医療・介護は基盤インフラ」として、「社会保障は負担ではなく、日本の経済を元気にする力」と強調しました。

まとめでは、「医療・介護に接点がないと、税や保険料を使うばかりの存在という偏見を

助長しやすい」「理解を広げるためには、危機にある医療・介護の実態を客観化して、

“事実の重み”で声を上げる人の裾野を広げ、行政に迫る運動こそが政治を変える力」と述べ、「力を合わせ社会保障政策の転換を」と訴えました。

集会アピール・街頭宣伝

最後に「長野県の医療・介護の危機をともに乗り越え、安心して住み続けられる地域をめざすために、手をつないで力を合わせましょう」という集会アピールを拍手で採択し、保険医協会会長の宮沢裕夫会長の閉会挨拶で集会を閉じました。

集会終了後、参加者のうち約40名が長野駅前に移動し、採択した集会アピール等を配布しながら宣伝活動も行っています。



参加者の感想から

「自己責任、偏見が広がっていく情勢に危機感を感じていましたが、事実を伝えていくことが運動となることを学ぶ機会となりました。」「このままでは、私たちは医療も介護もともに受けられないことになってしまう。所得の再分配を強め、格差を少しでも少なくする政治・政策に向けて運動を強めましょう。」等の感想が寄せられました。

これからも医療・介護の危機を乗り越える連帯と共同を広げ、安心して住み続けられる地域づくりをめざしていきましょう。